

人物像木版画制作の試み スポーツ学生の体験学習

The Report on the Woodblock Printing of Person Image
by Students of Hokusho University

水 野 信 太 郎
Shintaro MIZUNO

はじめに

今日を迎えている北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科スポーツ施設研究室であるが、当研究室では平成12年（2000）4月に設置された、かつての生涯学習システム学部健康プランニング学科住生活・住環境研究室以来、一連の試みを継続してきた。それは3年次ゼミ生を中心とする学部学生諸君による幾種類かの継続的な学外活動である。これらの内容は生涯学習システム学部の発足3年目当時より、健康プランニング学科の第1回入学生たちの手によって平成14年から始められた¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾。

一昨年度にあってもJR江別（北口）駅前で開催された「第24回えべつやきもの市」の会場（通称：三角公園）内において新しい試みを実践した。蒸気ボイラーを用いた「炎の祭典」である。この活動は当ゼミナールにあっては未知の体験学習であった。それはステンレス・スチールで840mm×400mm×240mmほどの蒸気ボイラーを新たに製作した上で実施した。そのボイラーに水を注入し、下から木炭を燃焼させて加熱することで熱湯を沸かす。するとボイラー内で発生した蒸気が、圧力や熱を外に向かって出すことになる。その力を目に見える形にして来場者に公開しようという内容であった。

沸騰した薬缶の蓋が蒸気^{やかん}の力で浮き上がる現象を、大勢の人々の前で学生たちと追体験してみようという試みである。結局、蒸気力を示す目に見える方法には、風車と風鈴そして蒸気で笛を鳴らすことにした。この試みに関しては、すでに報告済みである⁹⁾。

本稿で発表する内容は、公開の場面におけるパフォーマンスではなく、冬季間の室内における体験学習の一例である。スポーツ系学生が自身の身体を駆使して制作する木版画に関するレポートである。版画を彫るという工程は、単に絵画や図を制作する行為と比較して、時間的にも体力的にも制作者に大きなものを要求することがある。

しかし半面では魅力的な点も見受けられる。それは一旦、版木を制作してしまえば同一の造形作品を数多く得られるという利点である。このことによって体験学生自身が版木はもちろんのこと、本稿に掲げる作品とは別に版画の実物を複数もち帰ることも出来る。そのうえ版画のモチーフはスポーツ学生にとって憧れの世界的なアスリートたちである。

参加学生の手記

これ以降の本紙面では、今回の体験学習において「スポーツ選手」の人物像を木版画に制作した学生諸君のレポートを掲載する。掲載する順番については、紙面での登場順とする。全体の構成あるいは各種スポーツの競技種目などを鑑みて、紹介する版画作品の順番を考慮した。掲載する学生諸君は、いずれも昨年度の3年次学生たちである。以下、順を追って学生たちの手記を採録することとしたい。

版画を終えて

健康プランニング学科 3年Cクラス 中溝 紘基

私たちは、ゼミの後期の課題として版画を行いました。題材のテーマとしては、誰もが分かる有名なスポーツ選手でした。いろいろ悩みましたが、私は小学校から野球をしてきたので野球選手にすることにしました。その中でも誰もが分かる選手といえば、やはりメジャーで活躍している選手だと思いました。その中でも一番知名度が高いのはイチロー選手だと思ったので、私はイチロー選手の版画を彫ることにしました。

まず、最初に行った工程が、題材に選んだ選手の画像を入手して、それが裏面になるような画像をえがくというものでした。私は、絵を描くのがかなり苦手なので困ったなあと思っていましたが、手にした画像から版下をつくる作業だったので、思いのほか面倒くさくなく終わりました。

次に、その写した絵を木の板に描き写して、それを彫る作業に取り掛かりました。彫刻刀を使い、木を彫るのは小学校以来だったので初めの方は楽しみながら作業していました。しかし、作業を進めるにつれて、細かな作業が要求される部分も出てきたのでかなり疲れました。その中でも、一番気を使った部分が、白の部分と白の部分が隣あっているところです。なぜなら、気にせず全部彫ってしまうと、境目がなくなり、すごく大変な状態になり、修復不可能になってしまうからです。でも、いくら気を付けて作業をしてもちょこちょこミスをしてしまい、ところどころとぎれてしまいました。それに、白の部分が多く、彫るのにかなり苦勞しました。次は、いよいよ紙に刷る作業です。筆で黒の部分に丁寧に墨を塗り、紙を上にかぶせて機会にセットし、すりあげました。一枚目は墨を塗りすぎて、マークのところなどの溝に入り込み真っ黒になってしまいました。また、陰になっているところは、半黒にしたかったので少しだけ彫って薄い黒になるようにしたかったのですが、思ったようにはいかず、すごく顔色の悪いイチローになってしまいました。このため結局半黒のところは、すべて彫り白にすることにしました。

2回目は、あまり、ベチャツとにならないように、墨を薄めに塗って刷ったのですが、かすれている部分が多く、失敗に終わりました。それに、あまり時間をかけすぎても徐々にかわいていき、しっかり写らなくなってしまいます。この、墨を塗るのにかける時間と墨を塗る量の調節はなかなか大変でした。何回かの失敗を重ね、ある程度しっかり刷れるようになり、本番の

版画を刷りました。上手くはできませんでしたが、パッと見てイチローと分かるようにはできたとします。ほかの皆も、なかなかクオリティーの高いものが出来ていたと思います。

今回この版画を作成するにあたって、彫刻刀を使うのは小学校以来でしたが、確実に小学校の時よりも細かなところまで彫りあげることが出来、良いものを作り上げることが出来ると思っていました。でも、自分が思っていた以上に彫刻刀を扱うのは難しく、なかなか言うことを聞いてくれませんでした。最初は完全になめていました。こんなにも大変で難しい作業を小学生の時にしていたのか？と思うほど、久々にやってみると難しいことでした。おそらく、小学生が版画を作成してもそんなに変わらないのではないのか？と思うほどの出来でした。

画像をおこし、それを木の板に描くところまでは、上手くいっていたと思うのですが、それを、同じ見た目のまま、彫刻刀で彫り上げ、紙に刷りあげ、白と黒の世界で表現するのは、とても大変でした。

木の板を彫り上げる作業までは、冬休みの間に各自、家で行ってきたのでゼミの時間では、する作業に時間をかけました。すぐに終わるものだと思っていましたが、予想以上にかなりの時間がかかりました。17時くらいから刷る作業をスタートして、最終的に皆が本番を刷り終わったのが20時くらいになっていました。これには驚きました。刷ってはダメなところを彫り、また刷る作業を繰り返し、墨を塗るベストな量や時間を見つけるまでに皆、結構時間がかかっていました。でも、時間をかけたおかげか、皆の作品は誰を描いているのかしっかりと分かり、上手に出来上がっていたと思います。

水野先生の作品を見た時はかなりびっくりしました。すごく細かなところまで綺麗に彫られており、彫刻刀でこんなところまで彫れるものなのか？というところまで、ミスをすることなく、かなり綺麗に仕上がっていました。版画というのは大人が本気を出してやればここまでクオリティーの高いものが出来るのかと思いました。でも、恐らく、自分も版画を作成していなかったらその大変さとすごさは、分からなかったと思います。水野先生の作品の完成度の高さに少し感動しました。が、その反面自分の作品と見比べると完成度の違いがはっきりしてしまいました。

でも、あんなに細かくどのようにして彫り進めていったのか見てみたかったです。自分ならあまりの細かさにだんだんイライラしてきて、途中であきらめてしまうと思います。あれだけ完成度の高い作品を作りたいとは思いますが、版画作成は思いのほか時間と体力を使うのでもうしばらくは、こりごりって感じです。それに、どれだけの版画を作成すればあそこまでたどりつけるのかも分からないので、恐らく、もう人生で版画を作成することはないと思います。今回のこのような機会がないと版画は小学校以来、一生成成することはなかったと思います。ですから、まあ、大変だったけれども、良い経験ができたと思います。

今回、版画を作成して、最初になめてかかっていたせいなのか、すごく大変で疲れました。もう、本当に人生で版画を作成することはないとは思いますが、もしまた、そんな時がきたら、今回のことで少しなりとも知識がついたと思うので、それを生かしたいと思います。特に彫刻



作品-1 イチロー選手



作品-2 マリア・シャラポワ

刀の使い方は、最初に彫り始めたときよりは随分上手く扱えるようにはなっただと思います。その知識を生かして、今度は水野先生の作品よりもすごいものを作りたいと思います。まあ、無理だとは思いますが。でも、完成度の高いものを作成すると達成感はすごいと思うので頑張りたいです。

版画がこんなに奥が深いものだとは知りませんでした。まだ自分は入り口にさしかかった程度だとはおもいますが、そんな自分が思うくらいだから相当なものだと思います。

今回は本当に良い経験ができたと思います。

後期のゼミ 木版画

邊見 史茂

平成25年、後期のゼミではいろいろな活動を考えたのですが、最終的には木版画について学びました。木版画は小学生の時に一度やったことがあり、私の中では簡単なイメージがありました。最初はイラストを考えるのが大変でした。テーマが有名なスポーツ選手と言う事になりました。

みんなは野球の選手やサッカーの選手などを選んでいましたが、私はあえて女性の選手を選びました。テニスの女王であるマリア・シャラポワと言う人です。まだゼミのメンバーでは誰も、女性を選んでいなかったのが絶対成功させるという気持ちでいっぱいでした。まず初めに、似顔絵から書く作業からでした。それがなんととても難しく、影などを描く作業をしました。次は版木に下絵を書く作業で最初は木に移すのは無理だと思いましたけれど、カーボンシートと言う物を使い思いのほか簡単にできました。とても、写真のような出来ができとても良い感じに仕上げられました。それからの微調整がとても難しく大変で、時間があつというまに過ぎて行って苦労しました。特に難しかったのが、やっぱり髪の毛や顔の影作りでした。あの作業はとても細かく、素人では難しい作業でした。その分、集中したので版木に移すのは自分の中でも早かったと思いました。

みんなもそこまではサクサク仕上げているので良い調子で問題なかったと思います。書き終わるのが早いと残りの時間はみんなで、就職対策試験問題集に取り組みました。先生がプリントを配り皆ひたすらやっていました。とても簡単な問題だったのですが、じっくりと考える必要がある問題でもありました。

それも終わり、次はやっと木を彫る作業です。私は12年ぶりに彫刻刀を使いました。小さいころは簡単に彫れていたのですが久々にやると、とても難しく指にまめができました。彫る作業が一番大変だったと思います。彫ることは簡単なんですけど、女性の選手なので髪の毛や目のあたりがとても細かく、上手く彫ることができなくて苦労しました。だんだん慣れていくと細かいところも簡単に微調節できるようになります。しかし彫る深さがとても気になり、これで上手く絵になるのかと思いました。深く彫り、影のところは黒く残し、半黒のところは軽く半分だけ残して彫る形でやっていました。それから、めちゃくちゃ細かいところは先生にやってもらいました。やっぱり先生はサッサと彫り細かいところも簡単に彫ってしまうので、



作品 - 3 松坂大輔

さすがだと思い尊敬しました。みんなも順調に彫りつづけ、やはり先生の手助けを借りていました。でも、彫刻刀を使って思ったことは、根気よくやらないと続かないと思いました。小さいころに自分でしたことは忘れずにいるもので、思い出しながらやれば意外とできることをこの木版画体験で学びました。たぶん木版画の中では彫る作業が一番手間のかかる作業だと、とても感じました。次にやる時は学んだ事を思い出して、簡単にやる事が出来るとおもいました。

つぎは、彫った板から紙に刷る作業です。これで終わりかなと思いましたけれども、実に難しい作業で上手く刷れなくて大変でした。まず初めに墨を彫った木に塗ることから始まります。黒くするところだけ塗り、白くするところは塗らずに案外単純な作業でした。けれども、範囲の広いところは簡単に塗れるのですが縁を塗るのが難しく、早めに塗ってしまうとすぐ乾いてしまって紙に写った時には全く色がのらないことがありました。ですから縁を最後に、面積があるところは先に塗るようにすると、ちゃんと綺麗に墨がのりました。

次が初めて使うプレス機で刷る作業です。小学校時代に使ったのは、バレンと言う丸くて手を動かし自分で刷るものでした。プレス機を見て思ったことはこれで本当に刷れるのかとすごく思いました。プレス機の使い方を教えてもらい使ってみると小学校で使っていた、バレンよりも簡単にハンドルを回すだけで刷ることが出来ると言うとても良い物でした。ハンドルを回すスピードも大切であり、一定のスピードで回す事が重要になっていきます。その分、綺麗に刷れる事がわかりました。刷ってみるとまったく墨ののりが悪く、やり直しを何回もしました。

私はやり直しを4回くらいやって、ついに本番の紙で刷ることになりました。本番の紙はとても固く画用紙みたいな肌触りでした。練習よりも墨を多く塗り、プレス機も自分なりに上手くやり、完璧だと思ったのですが、やはり色がかぶり良い物が出来なく悔しい思いをしました。けれども、先生のアドバイスをもらい何回かやってみると目や鼻や口なども綺麗に写り、良い出来になりました。本番も一発で出来ず何回も挑戦しました。みんなもやっぱり一発で出来ず上手いかないな一とは言うておりました。彫るのは一番最初にできたのですが、刷るのは最後だったので本当に悔しかったです。そして完成したのを先生に見せ、とても良いですねと言われて、とてもうれしかったです。

この木版画をやって感じたことは、とても地味な作業で小学生の頃を思い出す良い体験でした。自分でも木版画の出来はとてもいい物になったと思いました。みんなとの作業は楽しくでき今まで学ばなかったことを先生に教えてもらいとても貴重な体験をできたと思いました。これからの人生でも今回この様な体験が出来たことを活かし、版画で学んだ事を、いつも全て出しながら完璧にできる様になりたいと思いました。

版画を作り終えて～

3年D組 深井 典政

今回水野ゼミは版画制作をして一人ひとりスポーツ選手を題材にして作品を完成させました。まず版画を彫る木の板をもらい、正月休みを利用して彫ってきました。ちなみに僕はボストン

・レッドソックスに所属している松坂大輔選手の顔を題材にしました。自分は全くやったことはないのですが実際に下書きをしていくのは楽しかったです。黒と白に分かれるように彫っていくのですが、半黒にする所などがあって難しかったです。でもそこは水野先生がやってくれてとても助かりました。似せるための影や表情、輪郭、目なども大変で本当に松坂大輔になるのか不安でした。でもそこも水野先生が手伝ってくれて想像もしてなかった彫り方や、すごく使いやすい彫刻刀を貸してくれて何とか彫り終えました。

この時版画を彫っているときは下が絨毯のゼミ室だったので木くずが床に落ちて後片付けが大変でした。

そしてついに墨をつけて刷るところまで来ました。僕は本当に松坂選手の顔になるのか不安しかありませんでした。でも実際に本番が来ました。そして刷りました。すると、見事に誰が見ても松坂選手の顔でした。完全に成功でした。

水野先生が彫ってくれた、目の形が松坂選手の目になっており表情が出ていい作品になりました。ありがとうございます。

ほかの人の作品もみんな完成度が高く誰が見てもわかるもので、自分を含めてみんな納得の行くまで刷りつづけていました。終盤には水野先生の作品も登場してきました。やっぱりかなり木版の方も丁寧かつ繊細に彫られておりレベルの高さがわかりました。墨の色も違っておしゃれな作品でした。版画制作の過程を振り返ると、かなり時間をかけないといけない作品ができないし丁寧さと技術が必要だと思いました。もっと下書きをしっかりと描いていれば顔のしわや表情を出せたんだと、思いました。

今回版画制作をして絵や写真などの芸術と違うものを体験できたし、昔の人はこうやって印刷をしていたんだとおもうと原版がとても大事だし、今となっては立派な芸術作品としてあるので貴重な経験だと思いました。

ありがとうございました。

スポーツ教育としての版画作成

3年D組 吉野 駿平

三年次後期の専門演習では版画の作成を行った。大学三年生が行うとは思えない内容だが、先輩の体験レポートや、水野先生の話を知っているうちに小学生のときに行った版画とは違い、素材や彫り方そして刷り方などさまざまな方法があり奥が深いものだということがわかった。今回題材となったのはスポーツ界の実在する有名人だ。誰が見てもあの人だとわかるように彫らなければいけないし、みんなが知っている人にしなければいけない。

自分はサッカーをやっていることもあり、サッカー界のカリスマ「デイヴィット・ベッカム」氏を彫ることに決めた。他のゼミのメンバーもそれぞれ決まったようで、多田君は楽天イーグルスのマー君こと田中将大、深井君はメジャーリーグで活躍する松坂大輔、中溝君はイチロー、辺見君はテニス界の女王マリア・シャラポワを題材にすると決めたようだ。

まず、題材にすると決めた人の顔をスポーツ紙や図書館やインターネットなどで調べて、画

像を探した。その画面を反転する図に仕上げ、しかも板の大きさまで拡大しなければならない。最後にカーボン紙を使って版板に写した。この作業が一番大変で、少しでもずれてしまうと本人とは違う顔になってしまうので、結構神経を使う作業だった。この作業の次は実際に板を彫る作業を行った。この作業は少しでも手元が狂うと本来彫ってはいけない部分まで傷つけてしまうので細心の注意をはらって行ったが、そんなにうまくいくわけがなく、ところどころ失敗してしまった。

最後に実際に刷る作業を行った。板に墨汁を塗り素早く印刷する。印刷には専用の機械を使用した。この作業も繊細なもので、墨汁が乾かないようにしなければならないし、墨汁の塗り残しがないようにしなければならない。練習で何回か刷ってみたが、彫りが十分ではないところや、彫っていないところなどもあり、修正が必要なところもあった。何回か手直しして刷ることに成功した。完璧で何もいうことがないという作品にはならなかったが、思ったより完成度が高く自分の作品に驚いた。

今回の版画を制作するということが最初どのような意味があるのかあまり理解はできなかったが、素材を生かすという部分でわかったことはたくさんある。今回使用した板は何重にも重なっているもので比較的彫りやすいものだった。自分は少し深く掘るために、一枚目をそのままはがしてしまうというやり方をとった。そのおかげであまり力を使わないで彫ることができた。また、木目に逆らわない彫り方だったので彫った後もきれいに仕上げることができた。

彫りは先生にも指導してもらいながら行ったが、先生の技術を使おうとしても経験がなかったためうまく行くことはできなかった。しかし何回か繰り返して行ううちにできるようになっていった。版画は木などを彫って行うもので一回の作業ですべてが決まってしまう。その代わり同じ作品を何度も繰り返して作成することができる。そのたび同じ作品でも違う味が出たり、刷り方によってさまざまな見せ方をすることができる。絵もコピーすることで何枚も同じ作品を印刷することはできるが、版画とは違い全てがまったく一緒に一枚一枚が違ったものにはならない。

今回、専門演習Ⅱの講義内容として版画を行ったことが、こんなにも充実した内容になるとは思っていなかった。何度も試行錯誤し、どのような彫り方をすればいいのか、この部分はどのような彫り方が一番いいのかなど、たくさん考えた。版木に一度彫刻刀を入れてしまうと直すことはできないので、そういう部分での緊張感もあった。最終的にはいろいろなところを飛ばしてしまいお世辞にも最高傑作というものは作ることはできなかった。しかしこの世にたった一つの自分にしか作れない作品を残すことができよかったです。この体験を生かして今後の考え方などに生かしていけたらいいと思う。

後期のゼミを終えて

多田 陽

平成25年度の後期水野ゼミは、まず、全員でどんな活動をするか決める会議を何度か行った。それぞれやりたいことはたくさんあったが、なかなか実現するのは難しかったり、学内ででき



作品-4 デイヴィット・ベッカム



作品-5 田中将大

ることがあまりなかった。その中で水野先生が木版画という提案を出してきた。最初みんな微妙な反応をしていたが、他にやることも決まらず最終的に木版画に決定した。その内容として、題材のテーマは、生涯スポーツ学部ということで、スポーツ選手ということになった。それぞれ、憧れの選手やかわいくて好きな選手などを選び、本人の顔を手にいれて大きく伸ばし、それを木の板に転写することから始まった。人物を見ながら書くのではなく映して描くということなので簡単かと思っていたが、木版画としての完成形を想像しながら描いていかななくてはいけなかったのが、非常に大変だった。最初は影なども再現しようと試みたが、思ったようにはいかず断念してしまった。そして、冬休み前の最終ゼミでカーボン紙を使った版木への下書き転写は全員完了した。そして冬休み明けに印刷することに決定した。

冬休みに個人で彫刻刀を使い、彫り上げていくのは難しかったし、慣れない彫刻刀に苦戦もたくさんした。そして、冬休みが明け、ゼミで最後の仕上げをして、いよいよ墨をつけて印刷することになった。17時頃から印刷開始。まずは試しで何枚か薄い紙に練習をした。木版画は墨が濁しやすい所や、濁しにくい所があり、墨を塗る場所も考えて塗っていかななくてはいけなかったのが大変だった。最初の1枚目は、色の濃い部分と薄い部分がはっきりしていて、完全に失敗だった。2枚目は、その失敗作を見ながら、墨を塗っていく順番を変えてみたり、たくさん塗る所と、少しだけ塗る所を考え直してやってみた。しかし、1枚目に墨を塗っていた分、濁き方に違いが出てきて、また失敗してしまった。それから3、4枚繰り返してやってみて、ある程度わかってきた所で本番にとりかかった。

本番の紙は、練習の紙よりも分厚く、墨を塗る量を微妙に変えなければいけなかった。しかし、練習で墨の配分はだいたいわかっていたので微調整をして一気に刷り上げた。悪くは無かったが、一部微妙に薄い個所があり、本番2枚目にとりかかる。これはうまくいった。水野先生からも、「ちゃんと誰だかわかる！」と言われてそれを提出することに決定した。全員が終わったのは8時頃だった。1枚ずつしか刷れないので時間がかかってしまったのはしょうがないことだと思うが、流石に疲れた。最後にきちんと片づけをして、後期のゼミの活動は終了した。

今回のゼミ活動を終えて、最初は正直あまりやる気がなかったが、やってみると、自分で構図を考えたり、自分で彫ったものが木版画としてきちんと形になったのを見て、やってみてよかったと思った。このような経験はゼミの活動じゃないとできないことだと思うので、今回経験したことを今後の活動にも生かしていけたらいいと思う。

むすび

以上報告してきたように、昨年度の後学期は木版画の制作を体験学習した。初めての試みとして挑んだ内容は、実在する世界的なスポーツアスリートたちの姿を再現してみるという作業であった。学生諸君としては、自分自身が敬愛する選手像を長時間かけて実像にするまで完成

させていく過程に、少なからぬ喜びを感じ取ってくれたようであった。参加した生涯スポーツ学部学生諸君の今後にとって、何らかのよき影響がいつの日にか現れることを期待したい。

また毎年のことではあるが、当ゼミナール活動を実施するに際して、実に多くの方々のお力添えを賜っている。末尾になってしまったが、心からの謝意を表明するものである。昨年度の当研究室所属学生のみならず、これまで筆者に木版画ならびに広範囲な美術教育をして下さった先生方に改めて、こころよりおん礼を申し上げます。

以下この紙面を借りて、今回の体験学習を手短に伝える思いから韻文を記すことで、ささやかな成果のひとつに加えたい。北海道における後学期の授業らしい季節感が出ているであろうか。

駅前

ロータリーさえ

雪げしき

雪の白

刻みし 版木に

初の墨

続いて、この体験学習のねらいや実態に触れてもいる。

版画こそ

生涯学習

力わざ

体力維持に

腕力増強

木版の

広き白地は

木の くずを

サイコロ状に

砕き とり去る

しなベニヤ

彫り込む刃先

木屑 散る

勢い余り

欠けて 落胆

切り出し刀

握る手指の

同じ箇所

痛み 覚えど

なおも やめなむ

点々と

白き版木に

赤い跡

右手 小指の

小さな傷

右利きの

小指の指さき

血が にじむ

木版面の

木くずが 刺さる

そして出来あがってきた作品群を目にして、



作品-6 立原道造

誰が顔か

しかと判明

出来の良さ

学生諸君

自作に ほほえむ

版木肌

年輪 刻む

幾重 波

ベタ刷りの 箇所

歴史を おもう

スポーツの

ヒーロー ヒロイン

著名なる

絵姿 写し

これぞ 宝よ

若くして

逝きし 詩人の

姿 彫り

なお 力 増す

われ ここにあり

注

- 1) 「生涯学習系学生たちによるたたら製鉄復元操業」拙稿。『浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要 生涯学習と実践 第8号』浅井学園大学生涯学習研究所, 浅井学園大学, 平成17年3月, PP.199-214
- 2) 「手動ふいごを用いたたたら製鉄復元操業」拙稿。『浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要 生涯学習と実践 第9号』浅井学園大学生涯学習研究所, 浅井学園大学, 平成18年3月, PP.135-148
- 3) 「ものづくりフェスタにおけるガラス製造の試み」水野信太郎・大内拓也・加藤和彦・福澤良子・松田晃司。『浅井学園大学 『人間福祉研究』 第10号』浅井学園大学人間福祉学部, 浅井学園大学, 平成19年3月, PP.199-210
- 4) 「えべつやきもの市におけるガラス製造の試み」拙稿。『浅井学園大学短期大学部研究紀要 第45号』浅井学園大学短期大学部, 浅井学園大学, 2007年3月, PP.81-94
- 5) 「えべつやきもの市における煉瓦アーチ積体験」拙稿。『北翔大学生涯学習システム学部研究紀要 第8号』北翔大学生涯学習システム学部, 北翔大学, 2008年3月, PP.65-80
- 6) 「生涯学習系学生の煉瓦およびミニチュア煉瓦のアーチ積」拙稿。『北翔大学短期大学部研究紀要 第47号』北翔大学短期大学部, 北翔大学, 2009年3月, PP.91-106
- 7) 「ものづくりフェスタにおけるミニチュア煉瓦アーチ積成功」拙稿。『北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要 創刊号』北翔大学生涯スポーツ学部, 北翔大学, 平成22年3月, PP.93-106
- 8) 「えべつやきもの市における手づくりピザの実践」拙稿。『北翔大学生涯学習システム学部研究紀要 第10号』北翔大学生涯学習システム学部, 北翔大学, 平成22年3月, PP.17-32

以上が学外においてイベントへの来場者向けに実践した試みである。これらの主眼とするところは、文系学生へ対する理科生涯学習の働きかけでもある。ものづくりであると同時に、

まちづくりへの関与であった。手がけた原料やできあがった材料には、砂鉄、川砂、鋳物砂、珪砂、粘土、煉瓦、ガラス、モルタル、鋼、木炭、小麦粉、小麦粘土、木、空気、電力などである。

また上記とは別に当研究室では、各種素材の加工学習を体験してきた。こちらは近年に至って、おもに冬季間の時間を活用している。扱った素材には、紙、写真、布、陶土、ガラス、化学製品、木材、材木、金属、墨汁ほかが含まれる。下に報告事例を掲げる。

「生涯学習系学部生の博物館資料整備ボランティア」拙稿。『北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要 生涯学習と実践 第6号』北海道浅井学園大学生涯学習研究所，北海道浅井学園大学，平成16年3月，PP.141-156

「健康・生活系学生の木材加工体験学習」拙稿。『浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要 生涯学習と実践 第10号』浅井学園大学生涯学習研究所，浅井学園大学，2007年3月，PP.117-126

「健康系学生の環境素材体験学習」拙稿。『北翔大学生涯学習システム学部研究紀要 第9号』北翔大学生涯学習システム学部，北翔大学，平成21年3月，PP.81-96

「生涯学習系学生の木工体験学習」拙稿。『北翔大学生涯学習研究所研究紀要 生涯学習と実践 第12号』北翔大学生涯学習研究所，北翔大学，平成21年3月，PP.93-108

「生活素材理解学習としての木版画制作体験」拙稿。『北翔大学短期大学部研究紀要 第49号』北翔大学短期大学部，北翔大学短期大学部，2011年3月，PP.15-30

なお木版画に関しては、「北海道の木版画家 尾崎志郎の戦中戦後 一生前の聞き取り調査記録―」拙稿。『北翔大学短期大学部研究紀要 第48号』北翔大学短期大学部，北翔大学短期大学部，平成22年3月23日，PP.15-30の報告もある。

9) 「えべつやきもの市会場における本学学生たちの活動実践」拙稿。『北翔大学生涯学習システム学部研究紀要 第14号』北翔大学生涯学習システム学部，北翔大学，平成26年3月，PP.34-48』